

市町村支援

事例：鳥取県立図書館

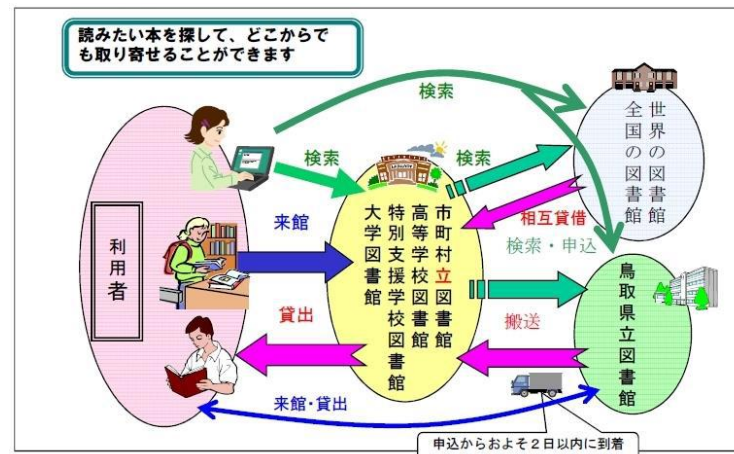
- 県立図書館の仕事……既存の図書館サービスの研究と、新しいサービスの開発を行い、市町村に普及啓発することを県立の役目と捉えている。



写真：鳥取県立図書館内
子ども読書応援コーナー（左）
学校図書館応援コーナー（右）

■ 相互貸借搬送システムと市町村支援

- 午前11時までに資料を依頼されれば、翌日には本が届く仕組みを構築している。
- 市町村立図書館と同じように、県立・私立含めすべての高校を県立図書館がサポート。レファレンス、物流に対応している。



画像：『鳥取県立図書館 協力業務ハンドブック平成30年度版（2018年度版）』より抜粋

学校支援（教育への貢献）

事例：鳥取県立図書館

- 県立学校の学校司書への研修は県立図書館の担当であり、年2回実施。
- 学校図書館支援センターを作り、市町村教育委員会をターゲットとして、教育委員会が小中学校の図学校図書館を活性化するためにはどうしたらいいのかという観点から支援。司書と司書教諭が協働して行う授業づくりであったり、学校図書館の活性化にはどのようなやり方があるのかを検証する機会を提供するために、司書と司書教諭がいっしょに研修する機会を作っている。
- 学校図書館に関わる以外の教員向けの学校図書館活用研修を市町村に主催してもらっている。



画像：鳥取県立図書館 学校支援センター チラシ

事例：鳥取県立図書館

- 「県立図書館の仕事は情報提供」という原則に立ち、資料の活用の延長線上にビジネス支援を位置付ける。金融機関や商工会議所等の専門機関が持っていないデータ、市町村図書館では揃えられない高額な専門書や統計資料を収集。
- 具体的な支援策、融資や補助金の活用の仕方といった専門機関の仕事については、専門機関側のキーマンとの人的ネットワークを構築・活用し、利用者を適切な機関へガイドする。

図書館があなたの仕事をサポート

ビジネス支援サービス

ビジネスで役立つ情報やヒントをお探してはありますか？

- * 起業を目指したい
- * 経営改善に取り組みたい
- * 新商品の開発を考えている
- * 最新技術についての情報が欲しい
- * 市場動向や業界情報を知りたい
- * 販路開拓や商品宣伝のヒントが欲しい

ビジネスに役立つ！

- ① **「書店で購入できない本」も利用できます！**
民間調査会社が発行する市場調査レポート、最新の技術動向を示した専門書等、一般の書店には並ばない高額で専門的な資料も利用できます。
- ② **データベースが無料で利用できます！**
県立図書館が契約する有料データベースが無料で利用できます。企業情報、人物情報、商標分析、法令・判例情報、農業情報などが検索できるデータベースがあります。
- ③ **図書館職員が調査をお手伝いします！**
探している情報が見つからないとお困りの方、図書館の職員が調査をお手伝いします。県立図書館の資料をはじめ、インターネットやデータベース等も活用し調査を行います。
- ④ **産業支援機関と連携しています！**
専門機関と連携し、無料のビジネス相談会やセミナーの開催、アドバイザーの紹介等を行っています。

鳥取県立図書館

〒680-0017 鳥取市港町101
TEL: 0857-26-3155 FAX: 0857-22-2996
mail: toshokan@pref.tottori.jp
http://www.library.pref.tottori.jp/
ツイッター、フェイスブックもご利用ください。

画像：鳥取県立図書館 ビジネス支援サービス広報用リーフレット

経済・産業への貢献

事例：神奈川県立川崎図書館

- 「ものづくり技術を支える機能」に特化し資料を充実。
 - 国内の公共図書館で初となる外国電子ジャーナルを導入。
 - 科学技術では専門誌が重要であり、学会誌、講演論文集、会社技報、海外の化学会誌等を購入や寄贈で収集。
 - 社史は約1.9万冊を所蔵する日本有数のコレクション。業界史や地域史を研究する上でも重要な資料。その他高額な工業規格類を収集している。
- 専門家との個別相談ができる部屋、異分野・異業種の方々の交流拠点としてカンファレンスルーム、館の資料を活用しながら打合せや議論ができるディスカッションルーム、集中して調査ができるキャレル席等、目的に応じた多様な空間を用意。



電気・電子分野で世界最大の学会刊行物であるIEEE、及び世界最大の学術文献プラットフォームであるScopusを導入。



写真（左から）：キャレル席、データベース閲覧用PC席、ディスカッションルーム

写真：専門誌棚（上）、社史コレクション棚（下）

文化（地域）への貢献

事例：国立歴史民俗博物館

- 「モバイルミュージアム」という形で強化段ボール製の移動型展示什器を用い、博物館の展示を地域で展開する。その際に収蔵資料のデジタルデータがあると、現地でプリントアウトして貼り付けるなどワークショップ的に行うことができる。デジタルデータは、原物では直に触れられない部分まで詳しく見ることができるメリットが大きい。位置情報を付加することで、地域資料を見つけやすくする効果もある。



国立国語研究所と国立歴史民俗博物館とのモバイルミュージアムによる共同展示の様子。
（画像：国立国語研究所「ことば研究館」HPより）

- 「みんなで翻刻」というプロジェクトを行っている。これは「古文書のクラウドソーシング」で、Web上で協力して古文書の文字起こしを行うものである。こうした活動に市民が参加することで、地域への理解を高めることにつながる。

画像：「みんなで翻刻【地震史料】」Webサイト



